北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

教員養成課程における金融教育実践者育成のためのカリキュラム開発：北海道教育大学講義「金融教育」の場合

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-01-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤本, 将人, 鎌田, 浩子, 川邊, 淳子, 濱地, 秀行, 野口, 泰秀, 太田, 和幸, 大西, 康史, 秋山, 玲奈, 小林, あい メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00006044

北海道教育大学紀要（教育科学編）第63巻　第１号　　平成24年８月
Journal of Hokkaido University of Education (Education) Vol. 63, No.1　　August, 2012

教員養成課程における金融教育実践者育成のためのカリキュラム開発

― 北海道教育大学講義「金融教育」の場合 ―

藤本　将人[1]・鎌田　浩子[2]・川邊　淳子[3]・濱地　秀行[4]・野口　泰秀[5]
太田　和幸[6]・大西　康史[7]・秋山　玲奈[8]・小林　あい[9]

[1]北海道教育大学教育学部釧路校社会科教育学研究室　[2]北海道教育大学教育学部釧路校家庭科教育学研究室
[3]北海道教育大学教育学部旭川校家庭科教育学研究室　[4]北海道教育大学教育学部札幌校経済学研究室
[5]別海町立上風連小学校　[6]札幌市立山鼻中学校　[7]釧路市立幣舞中学校
[8]伊達市立伊達小学校　[9]北海道二十一世紀総合研究所／北洋銀行

Curriculum Development to Promote Consumer Citizenship in Teacher Training

―Case study on a “Consumer Citizenship Education” unit at Hokkaido University of Education―

FUJIMOTO Masato[1], KAMATA Hiroko[2], KAWABE Junko[3], HAMACHI Hideyuki[4],
NOGUCHI Yasuhide[5], OTA Kazuyuki[6], ONISHI Yasufumi[7], AKIYAMA Rena[8] and KOBAYASHI Ai[9]

[1]Department of Social-Studies Education, Hokkaido University of Education, Kushiro Campus
[2]Department of Home Economics Education, Hokkaido University of Education, Kushiro Campus
[3]Department of Home Economics Education, Hokkaido University of Education, Asahikawa Campus
[4]Department of Economics, Hokkaido University of Education, Sapporo Campus
[5]Kamifuren Elementary School, Bekkai　[6]Yamahana Junior High School, Sapporo
[7]Nusamai Junior High School, Kushiro　[8]Date Elementary School, Date
[9]Hokkaido Research Institute for the Twenty-first Century Co., Ltd./ North Pacific Bank, Ltd.

概　要

本研究の目的は，大学教育，特に教員養成課程における金融教育実践者育成のためのカリキュラムを開発することである。カリキュラムの開発には，大学教員，小・中学校教員が協働し行った。有効性を検証するため，北海道教育大学の教養教育として実践を行った。本研究の意義は，産学連携の研究成果を大学講義の内容として編成する可能性を見出したこと，高等教育におけるカリキュラム開発の進め方を見出したことである。課題は，現職教員からの説明を受けることでカリキュラム作りの追体験までは達成したが，一方で受講生自らがものを作る体験が少なかったこと，結果，教科横断カリキュラムづくりの入り口で留まらざるを得なかったことである。

Ⅰ．北海道教育大学・北洋銀行金融教育プロジェクトの概要と本研究の課題ー大学・金融機関との協働による金融教育実践者の育成ー

北海道教育大学は，札幌校，函館校，旭川校，釧路校，岩見沢校の５キャンパスからなる教育単科大学であり，このうち札幌校，旭川校，釧路校が北海道全域の教育現場に密着した教員養成を主に担うこととなっている。

一方，北洋銀行は，預金額，貸し出し額及び取引顧客数など，道内金融機関においてトップの地位にあり，道民にとって身近な存在となっている。北洋銀行は，地域に密着した銀行として，CSR（企業の社会的責任）の観点から，子どもたちの金融に対する意識の向上を目指し金融教育に取り組んでいる。

北海道教育大学と北洋銀行は，「北海道教育大の児童・生徒及び学生の教育支援に関わること」「北海道教育大が実施する現職教員の教育・研究及び研修等の支援に関すること」等において協力体制を整えることとなり，平成16年11月に「教育に関する覚書」を締結するに至った。さらに，平成19年９月に金融教育の「共同研究契約書」を締結し，平成20年度から22年度の３カ年において，共同研究を実施することとなった。

３カ年の研究成果としては，①平成21年３月に附属札幌中学校において，北洋銀行津山博恒調査役（当時）と附属札幌中学校太田和幸教諭（当時）による共同授業を実施したこと，②平成21年及び平成22年８月に北海道教育大学において，札幌校濱地秀行講師による公開講座を開催したこと，③平成21年10月に札幌全日空ホテルにおいて，北海道教育大学，北洋銀行，東京学芸大学，みずほフィナンシャルグループ主催で，金融教育公開研究会を実施したこと，等が挙げられる。そして，④平成22年度に本共同研究の集大成として，北海道教育大学の教員養成３キャンパス（札幌校，旭川校，釧路校）において，「金融教育」という名称の講義を実施するに至った。さらに，これらの成果を引き継ぎ，⑤「金融教育」の講義については，平成23年度以降も開講されることとなった。

産学連携に基づいた３か年計画により上記のような成果を導き出すことができたものの，平成22年度に初めて講義を実施した際に，カリキュラム経営上の課題もまた明らかとなった。課題とは，以下のようなものであった。

① 大学で講義を実施したものの受講生に学習の価値が伝わっていない。－教育目標設定に関する根拠づけの必要性－

② 個々の教員の研究成果に基づいて講義を作成したため，講義内容に一貫性を持たせるという意識が希薄であった。－内容編成の視点を設定する必要性－

③ どのような方法により内容を伝えるかが定まっていなかったため，担当教員のスキルによって受講生の理解度に差が出た。－教育方法の選択と受講生への明確な伝達の必要性－

本稿では，平成23年度の講義を作成するにあたり，担当者間で作り上げたカリキュラム設計の在り方について報告したい。具体的には，大学講義「金融教育」の目的，カリキュラム開発の実際，開発したカリキュラムの実践例を説明する。このような報告を積み重ねることにより，産学連携による研究成果の活かし方，高等教育におけるカリキュラム開発の進め方，教員養成課程での効果的な実践の在り方について示唆を得ることができると思われる。

Ⅱ．カリキュラム開発の概要

１．講義設定の目的ー金融教育の普及ー

金融に関する内容は，従来，社会科と生活科，家庭科で教えることとなっている。教員養成を担う北海道教育大学でも社会科と家庭科を専門とする学生を対象に，専門科目群で教えることが検討されてきた。しかし，マネー環境の変化や決済をめぐるトラブルが後を絶たず，学生も巻き込まれる可能性のある今日の社会状況を踏まえ，金融に関する知識を広く普及させるために教養科目群として開講することとなった。

また教員養成３キャンパスの学生は，教員免許取得が卒業要件であり，ほとんどの学生が教員免許を取得して教壇に立つ。金融教育を教員養成の教養としても機能させるため，「現代を読み解く科目群」の一つとして本講義を設定することとした。

２．カリキュラム開発の理念

⑴　教育目標ー金融に関する知識の獲得と金融カリキュラム開発能力の育成ー

本講義では，以下のような教育目標を設定することとした。**資料１**は，シラバスに記載した教育目標の一部である。金融広報中央委員会が定めている「金融教育のねらいと性格」の文章を参照して作成を行った。（http://www.shiruporuto.jp）

規制緩和，金融ビックバンの遂行，情報化の進展などによって，マネー環境は大きく変容した。カード社会が進展し，携帯電話やインターネット決済などの利用により，子どもたちや学生も購入や決済をめぐるトラブルに巻き込まれている。

金融教育とは，お金の動きを理解しそれを通じて自分の暮らしや社会について考え，自らの価値観を磨きながら，より豊かな生活や社会づくりに向けて，主体的に行動できる能力を養う教育であり，キャリア教育と同様に自立した若者の育成に不可欠なものである。

そのためには，小学校段階から金融に関する教育を行うことが必要と考えられる。このため本講義では，学生自身が金融についての知識を身に付けるとともに，金融教育について理解し，それを実践できる教員の育成を目標とする。

資料１　金融教育の教育目標

⑵　教育内容ー初等・中等・高等教育一貫によるテーマの俯瞰ー

「金融教育について理解し，それを実践できる教員の育成」を達成するために，以下の**資料２**に示すような教育内容を設定することとした。

① 家庭科教育における金融教育
【担当：鎌田・釧路校・家庭科教育学】
② 社会科教育における金融教育
【担当：藤本・釧路校・社会科教育学】
③ 社会人としてのマネーモラル，銀行の業務と社会的役割【担当：小林・北海道二十一世紀総合研究所／北洋銀行】
④⑤ 貨幣と金融【担当：濱地・札幌校・経済学】
⑥⑦ 小学校生活科・社会科からの金融教育
【担当：野口・小学校生活科・社会科】
⑧⑨ 中学校社会科からの金融教育
【担当：太田・中学校社会科】
⑩⑪ 中学校技術・家庭科からの金融教育
【担当：大西・中学校技術・家庭科】
⑫ 小学校家庭科からの金融教育
【担当：秋山・小学校家庭科】
⑬ 一生を通じた金融教育
【担当：秋山・高等学校家庭科】
⑭⑮ 現代社会における金融教育の必要性と意義
【担当：鎌田・釧路校・家庭科教育学】
【担当：藤本・釧路校・社会科教育学】

資料２　講義テーマと担当教員の専門領域

金融教育の現状を確認した上で，現代社会の様相を踏まえた金融教育改善の方向性を論じる①②の講義，銀行という社会のアクターが自らの役割をいかに果たしているかを論じる③の講義，貨幣や金融そのものを対象化し経済を原理的に論じる④⑤の講義，学校教育において実際に金融教育をどう組織化すべきかを論じる⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬の講義，そして，現代社会における金融教育の必要性と意義を論じる⑭⑮の講義を用意し，受講者には初等，中等，高等教育を一貫して金融という一テーマを探求する課程を用意した。

⑶　教育方法ー事例の追体験による意義の考察ー

講義の方法については，社会科，生活科，家庭科などの多角的な視点から金融教育を学ぶことが必要であると考えたこと，現職教員にも講義を担

当してもらうことでより具体的に授業をイメージする力を受講生に養いたかったことなどから，総合的教科横断的に授業づくりを追体験できるように組織化することとした。

探求の手順としては，金融教育の意義を解説したのち（大学），原理を確認し（大学），教育実践として構築し（小・中・高校），再度意義について確認する（大学）ように構成した。このような手順で15回の講義を実施することにより，初等・中等・高等教育における授業づくりの追体験を行い，金融教育の意義を理解できるようにした。

Ⅲ．講義の実際

1．小学校社会科における金融教育の場合

⑴　講義のねらい

平成23年度の講義では，「金融教育の授業は，どう創るのか？」をテーマにし，「A　小学校の金融教育のあり方」「B　金融教育の授業のあり方」「C　金融教育の授業の実際」の３つの視点に沿って説明，演習を実施した。**図１**は，講義の構造を示したものである。

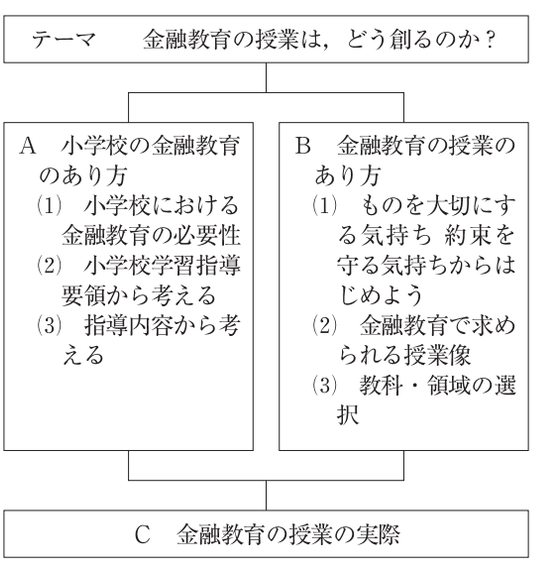


図１　講義の構造

「金融教育」という言葉は，大学生にとっては馴染みが薄い。現職の教員であってもその意味合いを捉えている者は少ないのが現状である。そのため，金融教育とは，子どもが何を学ぶ場であるか，また，どのような能力を身につける場であるか，そして教師はどのように支援をするのか，について大学生一人一人に具体的なイメージをつかませることが大切になる。そこで，**資料３**に示したような点に留意し，講義にあたることとした。

○小学校における金融教育の必要性について，日常生活，社会の要請等から捉えさせる。
○金融教育の内容について，内的側面と外的側面に分類し，発達段階による内容のおさえを捉えさせる。
○単一教科による指導，また，合科等による単元指導のあり方について捉えさせる。
○子どもの立場で授業場面に取り組ませ，子どもの思考の流れを実感させるとともに，教師の意図的な指導・支援について捉えさせる。

資料３　講義の留意点

⑵　講義の実際

以下に示す**資料４**及び**資料５**は，小学校における金融教育のあり方を教えるための指導案である。小学校における金融教育の必要性をつかませるものとなっている。具体的には，日常生活に関して，お金や金融のさまざまな働きを理解できるようにすること。将来設計に関して，自分の暮らしや社会について深く考えること。社会の要請に関して，自らの生き方や価値観を磨くことをつかむように講義を実施した。

ー小学校学習指導要領から考えるー

社会科
・食料生産・工業生産に関わって，価格や費用を取り扱う(第５学年)
・租税の役割，納税義務などについても取り扱う(第６学年)
家庭科
・物や金銭の大切さに気づき，計画的な使い方を考える（第５・６学年）
・身近な物の選び方，買い方を考え，適切に購入できること（第５・６学年）
生活科
・自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所と関わっていることがわかり，それらに親しみや愛着をもち，人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。
・公共物や公共施設を利用し，身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどがわかり，それらを大切にし，安全に気をつけて正しく利用することができるようにする。

ー指導内容から考えるー

内的側面		外的側面	
・ものの大切さ	・約束の遵守	・各種カードの機能	・借入の仕組み
・欲望の制御	・意思決定・・・等	・貯蓄・交換や市場の機能・・・等	

⇔ 関連

〇金融教育の授業のあり方

ー基本的な構えー

内的側面を大切にする小学校の金融教育は、まず、ものを大切にする気持ちや約束を守る気持ちを育てることから始める必要がある。なぜならば、お金を扱う場合、そこには大きな信頼関係が必要不可欠であり、信頼関係は、自他のものを大切にする態度や約束をしっかり守ることが基盤となるからである。そして、このことは、教育活動全体で育てていくことが大切である。

ー金融教育で求める授業像ー

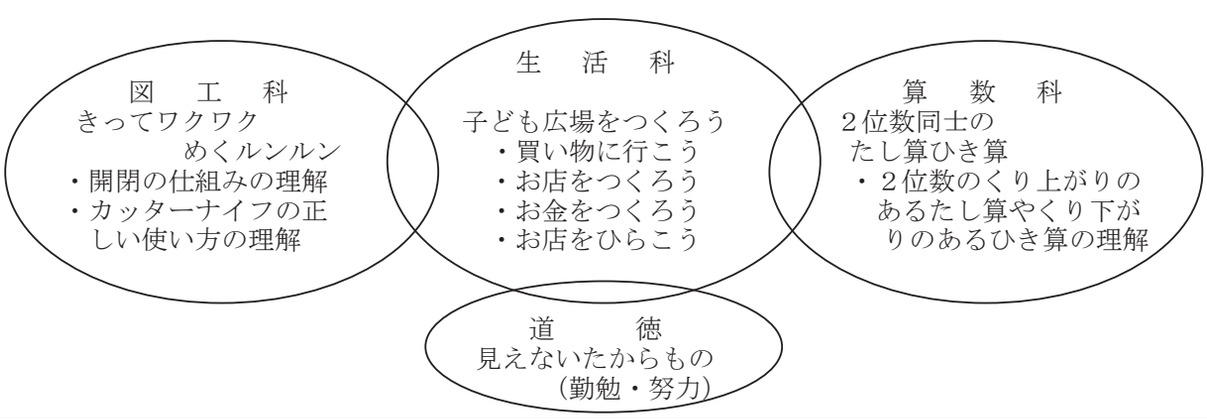
人と人とのコミュニケーションを通して，他の存在を認め，社会に対して自己主張しながら，望ましい価値を選択・創造し，意思決定できる子どもの姿

⇩

〇子どもに選択や提案の余地のある問題場面の設定
〇子どもが自ら情報を求める体験的活動の導入
〇必要に応じて話し合う交流場面の設定

ー教科・領域の選択ー

例１　単元名　子ども広場をつくろう（第２学年　生活科他　コアカリキュラムによる実践）



資料４　金融教育のあり方を講義するための指導案

○金融教育の授業の実際

ー金融教育　小学校高学年社会科ー

社　会　科　学　習　指　導　案

日　時：平成２３年　７月２０日（水）５校時
児　童：５学年　男子３名　女子６名　計９名
指導者：別海町立上風連小学校
教　頭　野　口　泰　秀
教　諭　外　川　篤　司

１，単元名　食料生産を支える人々　　ー目指せ　日本一の米農家ー

２．単元について

⑴金融教育と社会科とのかかわり

これまで，小学校社会科では，その内容として，経済に関する知識が取り上げられることはなかった。しかし，新学習指導要領では，金融や経済に関する基礎的な知識を身につけさせるという趣旨のもと，第５学年の「内容⑵のウ⑶のウ」において，生産を高める工夫や生産地と消費地を結ぶ運輸の働きなど，また，原材料の確保や製品の輸送のための費用などと関連づけて「価格や費用」について取り扱うことが新たに示された。このことは，変化の激しい金融環境に対応できるようにするためであり，小学生であってもお金や金融に関する基礎的な知識を身につける必要性に迫られたことにある。

⑵単元の構想について

単元「食料生産を支える人々ー目指せ　日本一の米農家ー」は、農業が盛んな地域の様子を調べ，食料生産に携わる人々の生産を高めるための工夫や努力を理解するとともに，生産や輸送に関する費用や価格にも目を向け，日本の農業の現状と課題をとらえることが大きなねらいとなる。特に，費用や価格に主眼をおくことは,新学習指導要領における金融や経済にかかわる基礎的な知識を身につけることにつながり，金融教育プロジェクトでの研究内容と関連性が深い。しかし，本時に関しては，学級担任が指導するものではなく，単元のねらいや内容を網羅しながらもコラム的な１単位時間として試行する。

本時は，米作りのシュミレーションゲームを通して，生産における価格や費用について関心を高めることに視点をあてることとする。なぜならば，小学校における金融教育は，内的側面を大切にする物であり，小学校高学年においては，意思決定やリスクの管理，自己責任などに主眼をおく必要性を感じるからである。

５．本時の目標（７／１０時間）

米作りシュミレーションゲームを通して，生産を高める工夫について意欲をもつとともに，価格や費用との関連について知識を高めることができる。

６．本時の展開

段階	子どもの学習活動・内容	教師の支援
つかむ	○問題場面の把握 ・え～。 ・めんどくさそう。 ・どんなことをするの。 ・本当に作らないんだから。 ー問題場面の設定ー これからみなさんに，米農家になってもらい，米作りをシュミレーション的に体験してもらいます。	○Ｉｆ・・・ｔｈｅｎ・・・?による発問により，自分のこととして学習を進められるようにする。 ○提案や選択のあるルール設定 ・資本金をマイナスにしなければ成功 ・リスクカードの選択 ・銀行の役割 ・販売の価格をきめる
とりくむ	○土地の選択 新潟県南魚沼に３００ａの土地。こしひかりを栽培するよ 秋田県大曲に１５０ａの土地。あきたこまちを栽培するよ。 北海道上川に７５０ａの土地。ななつぼしを栽培するよ。 ○リスクの提示 稲に病気が発 稲に害虫がつ 人手が少なく 日照不足で 機械が	○選択する３か所の土地提示 ・生産量が全国ベスト３ ・農業の仕方が異なる ・ブランド米の導入 ※判断力を高める教材提示としたい。 ○リスクの提示については，選択した土地，購入した物を把

資料５　小学校第５学年に授業を行うための指導案

⑶ 学生の感想からみえる成果と課題

・「農家になったら・・・という」シミュレーションのゲームがとても楽しかった。ぜひ，リスクカードもひいてみたい。私個人的には，小学生には金融教育をすべきだと思うが，先生のお考えを聞いて，その思いがより一層高まった。

・初等教育における金融教育の必要性に「お金や金融の様々な働きを理解すること」「自分の暮らしや社会について深く考えること」があって，小学校でどう扱えばいいのか，と考えたときに，金融教育の授業のあり方について話してくれたので，とてもためになった。コアカリキュラムはとても大切だと思った。また，授業づくりで「子どもに選択や提案の余地のある問題場面の設定」「子どもが自ら情報を求める体験的活動の導入」「必要に応じて話し合う交流場面の設定」のポイントをおさえて将来授業をつくりたいと思った。

・小学校の金融教育は不可欠だと思う。金融教育は生きる力を育む教科だと教わった。日常生活，将来設計，社会の要請の３本柱のために，金融教育からお金や金融の様々な働きを理解し，自分の暮らしや社会について考え，自分の価値観や生き方を大切にしていく必要があるとわかった。また，最後に農場経営の講義では，経営者の視点から農場の広さを決めたり，与えられている資本をうまく利用し，設備を整え，あらゆる問題に対処できるようにするのは難しいと思った。野口先生の学校では，学校紙幣があり，金融を教えることの大切さを実感していて素晴らしいと思った。

・普段使っているお札やコインでも，どこでつくられているか，どこで発行されているかなどは知らなかった。上風連小学校で，学校で使うお金をつくっていたように，私も小学生の時，学校祭でお金をつくったことがあったが，管理するのが難しかったことを思い出した。

・昔のお金のプリントを見せてもらったが，自分の生きている中では，現在のものと一つ前のものしか知らなかったので，お金にも様々な歴史があって，現在に至ったのだと感じた。

・米作りの計画では，土地を選び，その土地に応じて必要な苗の数を決めたり，限られたお金の中でどう計画を立てるのか，実際に子ども達がどのようにしていたかを紹介しながら説明されていた。「リスクカード」をひいてハプニングに対してどのような対処をするのかなどを通して，子どもがお金に関して考える力をつける工夫などがあると思った。

⑷ 実践者の感想からみえる成果と課題

【成果】

・小学校における金融教育の必要性について，日常生活，社会の要請等から学生に周知できた。また，小学校段階の金融教育の内容が内的側面を重視したものであることが理解と共感に訴えられた。

・生活科，社会科，総合的な学習の時間など多様な迫り方ができることが実感された。また，コアカリキュラムやクロスカリキュラムの手法により，より日常に密着した金融教育のあり方を理解させることができた。

・学生に子どもが取り組んだことと同じ事をさせることで，イメージを掴んだと判断できる。また，教師の意図的な指導・支援についても理解を高めてきている。

【課題】

・１年生が多かったため，指導法についての理解がやや浅くなってしまった。また，指導案についての理解も浅いため，資料の出し方に難しさを感じた。

・学生の実践の場を取り入れていくことが今後の課題となる。

２．中学校社会科における金融教育の場合

⑴ 講義のねらい

中学校社会科の学習内容として「現代の金融のしくみ」を扱うのは，主に公民的分野においてで

ある。しかし，地理的分野や歴史的分野の学習内容においても，金融にかかわる知識や経験を想起したり，過去の金融のしくみや現代社会の金融などを学ぶことが含まれている。

中学校社会科における金融教育は，単に公民的分野の経済単元の学習指導を指すのではなく，全分野の学習指導の中に関連付けて構成していく必要がある。

講義では，中学校社会科の面からの金融教育の指導の視点を概説し，実際に中学校での授業場面の再現を演習として取り入れながら，指導すべき具体的な内容や授業構成に取り入れるべき視点を解説することで，受講の学生が金融教育の実践者として必要なことを感得していくことをめざした。また，改訂された学習指導要領において「金融教育」が重視されていることも解説し，金融教育の重要性とその具現化についての課題を説明し，学生が講義全体を通して教科横断的な学習の中で実現していく必要性や可能性について考える機会となることもめざした。

⑵　講義の実際

ａ．受講学生の学習履歴のリサーチ

全受講学生（札幌・旭川・釧路キャンパス）に，中学校社会科への意識，高校での政治・経済の履修状況のアンケートを行った。教員養成系の学生であることから，教職を志すことを前提として講義するというスタンスを取った。学生が中学生の時，つまり学習者としての意識を想起させること，さらに政治・経済が高校で選択履修であることから，履修の有無による金融教育への意識を想起させることを，講義の導入とした。アンケートの結果は**図２**のようになった（回答数118）。

【中学生の時，社会科は得意な方であったか，苦手な方であったか】

得意な方	苦手な方
71.2%	28.8%

【高校の「政治・経済」の履修についてはどうであったか】

必修として履修	選択として履修	履修していない
35.6%	32.2%	32.2%

図２　受講者の学習履歴

ｂ．地理・歴史・公民的分野での「金融」に関わる学習内容の整理

中学校社会科の学習内容の中で，具体的に「金融」のシステムに関わる学習は公民的分野においてとなるが，金融や金融の知識が必要な学習内容は，地理・歴史の分野にもある。中学校社会科での金融教育は，３分野の学習内容の関連を図っていくことが重要である。

このプロジェクトで作成したテキストを使いながら，３分野での「金融教育」にかかわる学習内容を提示し，学習指導要領での金融の学習にかかわる内容を確認した。次に札幌市で採択される教科書を例に，教科書での具体的な記述内容を示し，これまでの学習指導内容と2004年度から全面実施となる学習指導内容の違いとして留意する点を**資料６**のようにまとめた。

○学習時間（授業時間）が異なることから，単元や１時間の目標と内容を整理する。
○新たに盛り込まれた用語や内容についての理解を，まず教師側がしなくてはならない。
○「身近で具体的な事例を取り上げ」とされていることから，どのような事例が生徒にとって身近で具体的なものかの吟味が必要となる。
○金融機関の具体的な存在や役割について，生徒の生活経験と合わせた学習内容の工夫が必要となる。

資料６　講義の留意点

ｃ．公民的分野の授業の再現と演習

実際に中学校の授業で使用したワークシートを使い，演習形式で，中学校社会科公民的分野での授業を再現する形態で講義を進めた。いわゆる経済単元の中では，家計・企業・政府の経済活動を，生徒自身の生活経験と結び付けながら，授業を展開していった。学生にとっては，過去の自分を振

り返りつつ，今の自分の生活と関連させながら考えて受講する姿が見られた。

講義では，家計の収入と支出の分類について，教科書に重要用語として挙げられているものを確認した。中学校の経済単元の初めの頃に学習する内容だが，意外と思い出せない学生も多かった。これはある程度予想されたことであるが，他の学習内容に応用・往復しない抽象的な知識事項が，習得事項としては定着していないことを確認できるものとなった。

学生に演習させた具体的な内容は，「①家計の収入と支出の分類を答えなさい。」「②収入が減少した時の家計と企業のつながりを考えなさい。」「③景気変動による社会全体の経済活動の動きを考えなさい。」というものである。①については，基礎的な知識の確実な習得を確認するため，②については，家計の収入の変化による，消費・生産・利潤の連続性についての思考・判断，法則性の理解を確認するため，③については，生産と消費を中心に，経済活動を動的なものとして思考・判断し，金融のはたらきの部分を着目するために設定することとした。

資料7のワークシートは，中学生が記述したものである。好景気の時に，「借り入れ」の項目はどうなるかを考えさせ，増加と減少の二つの考えが出ることを意図したものであり，講義の中で同じものを示したが，学生の反応も以下に示す二つの意見に分かれた。

○家計の収入が増加したのだから，貯蓄が増えるはずである。よって借り入れをする必要性は減少するはずである。

○企業は利潤が増加しているのだから，さらに生産を増やそうとして資金を借り入れることが増加するはずである。

二つのちがいは主語を何にするかで見方が異なることである。考え方としてはどちらも正しい。貯蓄の増減と，経済活動の資金の貸し借りという部分に着目することで，金融（金融機関）の役割に視点を移行していくことができた。この3つの演習は，「習得の確実性」→「知識と法則性」→「複数視点での思考・判断」という段階性をもたせている。これは学習指導要領で求められる，いわゆる「習得と活用」の授業場面での実現の例でもあり，学生にもその意図を伝えた。

(3) 成果と課題

【成果】

本講義全体を関連付けて学生が「金融教育」の重要性を体感的に捉えることができていたことが，事後のアンケートから読み取ることができた。小・中学校教員が実際の授業をもとに，演習を取り混ぜながら講義を展開したことの有効性を感じることができた。学生の疑問やつまずきを演習の中から見取ることで，金融教育の講義としてだけでなく，社会科の指導方法を中心とした教科教育の取り組みとしても得るものが多かった。

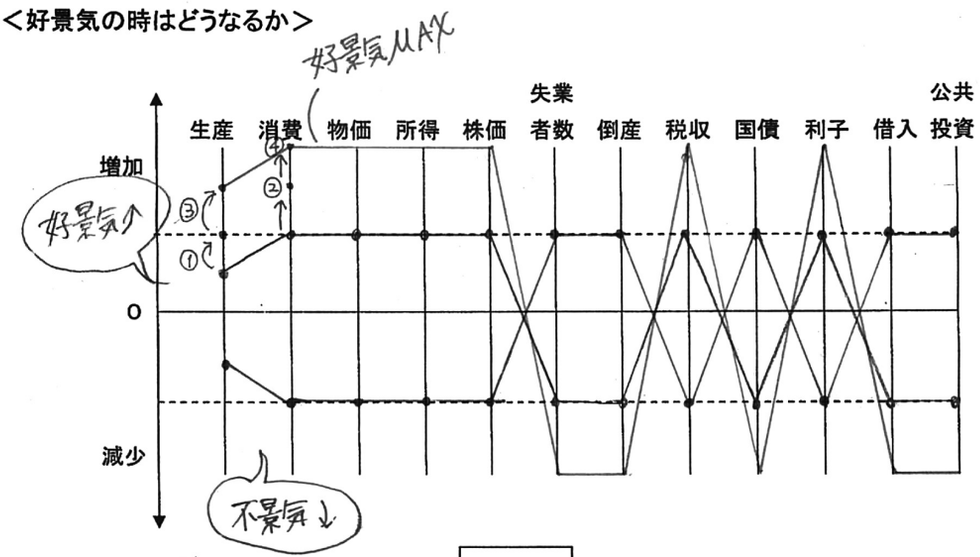
【課題】

限られた時間の中での講義であり，具体的な指導事項の詳細を伝えることや中学生への授業そのものを構想させることはできなかった。学生が金融についての理解を深めつつ，授業として指導していくための模擬授業のような形での演習も取り入れていく必要がある。他の校種・教科の実践との関連を図りながら，今後の実践の蓄積と取り組みの改善を行いたい。

3年社会ワークシート（日付 11／10）　【わたしたちの暮らしと経済】

景気変動をシミュレートしてみよう

＜好景気の時はどうなるか＞



好景気が続く…

この状態が継続するとどんなメリット・デメリットが出るのだろうか？

＜メリット＞	＜デメリット＞
・国の財政が潤う　・モノが豊かになる ・事業の拡大・充実　・企業の拡大 ・貧富の差が小さくなる 交流 ◦労働しやすい社会 ◦産業や金融の流れが活発になる ◦生活水準が上がる（エンゲル係数も） ◦財政の安定→国民の生活の向上につながる	・いつかはバブルがはじけるという恐怖を抱く ・公共投資が少なくなり、公共の福祉があまり優先されなくなる ・資源の消費が早まる 交流 ◦物価高で生活しにくい社会 ◦外国との貿易がしにくくなる

このデメリットを抑えるために、政府はどのようにしたらよいか？

・公共投資↓削減↓
・増税する↑
・利子（公定歩合）を上げる
・国債発行を増やす
・物価を上げる（公共料金）
・消費の規制する

政府嫌われるよ!!

みんなに嫌われたい　お得なプランこそ

資料７　景気変動を学習するためのワークシート

Ⅳ．本研究の意義と課題

本研究を進めた結果，以下に示す二点について示唆を得ることができた。

ひとつは，産学連携の研究成果を大学講義の内容として編成する可能性を見出したことである。従来の高等教育カリキュラムは，研究者の興味・関心に基づく研究成果を基盤に作成されてきた。そこでは，実社会で求められる知識や技能とは距離のある内容が取り上げられることが多かった。本研究では，実社会からの要求を直接大学カリキュラムに反映させることにより，受講者の生活に近づけた教育内容を作成することができた。

もうひとつは，高等教育におけるカリキュラム開発の進め方を見出したことである。従来の高等教育カリキュラムは，研究者の研究成果を受講者に消費させる形で内容を与えることが多かった。本研究では，現職の小・中学校教員が教員養成課程の学生に金融教育を通したカリキュラム開発の在り方を提示することで，知識を消費するにとどまらず，カリキュラム生産者としての立場から考察させることを意図していた。「Ⅲ．講義の実際」で示したように，受講生の感想からはその意図を汲み取った意見が提出されている。

一方で，課題も少なからず残ることとなった。それは，夏季の集中講義として「金融教育」を設定したために，カリキュラム作りの実際を受講者に体験させるまでには至らなかったことである。本研究では，現職教員からの説明を受けることでカリキュラム作りの追体験までは達成している。しかし，受講生自らがものを作る体験が少なかったこと，結果，教科横断カリキュラムづくりの入り口でとどまっていることである。今後も引き続き，研究の発展に資したい。

【参考文献】

・池野範男編著『“資本主義経済”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書，2005年.
・猪瀬武則「経済教育における多面的・多角的見方考え方の育成：カリキュラム構成の課題」『弘前大学教育学部紀要』第100号， pp27-34，2008年.
・金融経済教育懇談会『金融経済教育に関する論点整理』2005年.
・金融広報中央委員会『金融教育プログラム』2007年.
・日本消費者教育学会編『新消費者教育Ｑ＆Ａ』中部日本教育文化会，2007年.
・北海道教育大学『北海道教育大学附属釧路小中学校研究紀要』2008年.
・北海道教育大学・北洋銀行金融教育プロジェクト『未来を担う子どもたちの金融教育ネットワーク』北海道教育大学総務部総務課，2010年.
・山根栄次『金融教育のマニフェスト』明治図書，2006年.

【付　記】

本稿は，日本社会科教育学会第61回全国研究大会（於：北海道教育大学札幌校）にて行った発表内容をもとに執筆したものである。

（藤本　将人　北海道教育大学釧路校講師）
（鎌田　浩子　北海道教育大学釧路校教授）
（川邊　淳子　北海道教育大学旭川校准教授）
（濱地　秀行　北海道教育大学札幌校講師）
（野口　泰秀　別海町立上風連小学校教頭）
（太田　和幸　札幌市立山鼻中学校教諭）
（大西　康史　釧路市立幣舞中学校教諭）
（秋山　玲奈　伊達市立伊達小学校教諭）
（小林　あい　北海道二十一世紀総合研究所／北洋銀行）